九江は則ち江西省の貿易場咸豊九年(西暦一千八百五十九年)英人と約し開港せ商戰頗る盛んふり、府南二十五里、廬山あり(前ふ真畫あり)古の南嶂山是ふり、山の南を南康と〜北を九江とす、山の東南五老峯あり五老相連る如し、李白が青天削出せ金芙蓉是ふり、朱子の白鹿洞書院は峯下ふあり(口畫の中央即ち現今の真圖ふり)周子が濂溪書院は山下ふ在り、着名ふる禹刻は石室中ふ在りと曰へども今其處を知らず、又香鑪峯あり其形圓聳常ふ雲気を出す、其下瀑布あり開光寺は西ふ在り、日照金鑪生紫煙遥看瀑布掛長川飛流直下三千丈疑是銀河落九天此詩悉せり、府の西南九十里紫桑山ふり、紫桑栗電陶淵明が墓又汽船ふ乗り江を下る数里、白湖光忽ち船左ふ見る、即ち彭蠡湖ふり、安徽省ふ入り安慶府ふ抵る府城の東西南三面大江ふ瀕す賈船客舫蝟の如く聚り市街頗る繁華ふり、蕪湖縣ふ抵る(前ふ畫ふり)蕪湖縣は光緒二年英人と約し貿易場と為せ〜より、通商日ふ月ふ旺盛を極め埠頭殷賑江蘇省ふ入り江寧府ふ抵る

江寧府一ふ南京と稱す、此府は歴代其名を異ふす、金陵建業建康應天府と曰ふ、蓋し繁華京師ふ亜ぐものとも、然るふ彼の長髪賊大平王の亂ふ遇ひて城中大ふ景致を失すと雖も要するふ文華風流支那の第一地たり、名區勝蹟僕を更へて盡きず、今其着名ふるものを挙ぐ、府城もと六朝旧趾ふ因て増修す、旧

城は覆舟山ふ近く秦淮を去る五里ふ在り、五代の楊氏此ふ據る時改築して秦淮南北ふ跨有す、明ふ及びて益々拓き東鐘山の麓を盡す、周廻九十六里、十三門を立つ、又外城あり山ふ因り江を控へ城垣の高さ四十尺続りふ十六門あり、城中今殘棄して隙地多し、然さども家屋閑雅ふして街衢清潔就中南朝四百八十寺今猶多少の樓臺末末ふ隠見す、鐘山は府の東北ふ在り故ふ艮岳と名く、周廻六十里磅礴奇秀、全都の勝を占む、雞鳴一ふ雉篭と名く、山陽名士の廟墓多し、忠孝廟は晉の卞壼父子を祀り、曹武惠王廟は宋の曹彬を祀る、彬が江南を降すや、一人を殺さず、何ぞ此ふ廟食せざらん、劉仁贍の廟あり、明の開國功臣廟あり、江岸孔聖殿あり、孔夫子を祀る、賞心亭は城上ふあり、俯して秦淮を臨む、觀覽の勝を盡せり、側ら白鷺亭ふり又俯して江中の白鷺洲を瞰む、洲は曾彬が江南兵を大破する処、又鳳凰臺の旧趾は府南同名の山ふあり、大報恩寺は同門の下ふ在り、着名ふる磁塔は初め東晉簡文帝の創立する所ふ係る、後元人の兵燹ふ罹り明の成祖永樂帝再び之を建て十九年ふして功を竣す、其形八面八稜九層を畳し高さ二百六十一尺外面は覆ふふ五彩の磁板を以ても磁塔と稱する所以ふり、遠く之を望めば虹霓の如く塔中ふ螺階あり頂上ふ登り眺望すれば遠近の風景悉く眼中ふ集る是則ち當時の景象ふり、然るふ先年長髪賊の兵燹ふ罹り今や僅かふ遺跡を存するのみ、江を下る数里揚州府ふ抵る、

揚州府は禹貢揚州の域春秋の時吳に屬す、戰國楚に屬し秦の九江郡漢に江都隋に揚州唐に邗州、五代に揚吳此に都し、江都と曰ふ南唐の東都宋元仍りて揚州と曰ふ古支那の繁華を數ふる者揚一益二と曰煙花の盛ふるを記する者天下三分の煙月二分揚州にありと曰ふ或は十万錢を腰に鶴駕此州に遊ぶを欲す甚だしきは終身迄ちぞ遂ふ國家を矢ふものあり、綠楊城郭十里の珠簾裏人心を蕩するもの今昔に似ずと雖も猶其盛を極む文選樓は府城小東門文樓の巷内ふ在り、即ち今の旌忠寺、爭春館東閣普鶩觀等の遺跡あり、謝安宅は新城内に在り即ち今の法雲寺、董井は大東門外兩淮運司廳の後にあり、石塔寺は府治の西に在り唐の木蘭院ふり又鬪鴨池あり漢の孝景帝易王非と江都に封ず、王宮苑を治め佚游を好む常に寵妃李陽華と此池を濬へ鬪鴨の嬉をふす、猶府治の下重城康山蕪城蜀岡隋宮迷樓、月觀螢苑雞臺隋堤、鉤斜平山堂明月樓竹西亭芍藥廳九曲地二十四橋雷塘雲山閣紅橋廣陵濤梅花嶺等の勝地古址等ありと雖も一々詳說するふ遑ふし、南岸に上陸し行く六里鎮江府に抵る

鎮江府は秦ふ會稽郡三國吳初め此に都し後秣陵ふ移し京口鎮を置く揚子江此ふ京口と名く曹操南征此に臨み波濤洶湧たるを見嘆じて云ふ天南北を限ると是ふり、著名ふる金山は江中に聳立す、大江環繞大風四起する毎ふ浮動する如し故ふ浮玉山とも名く島上寺あり金山寺と曰ふ(前ふ鳴真菴あり)妙高臺留雲亭の勝あり、又雄

跨亭は宋の高宗雄跨す江南二百州の句に取り名々、又吞海亭あり焦山吸江亭に對し名づく水府廟海雲閣あり、所石文壇に最た る捺鶴の名は山下の水濱に在り、金焦二山相望む十五里毎に雄長を競ふ然れども各其趣を異にす、

金は華與焦は清麗

府北北園山あり下長江に臨み其勢險固山上の甘露寺は三國吳の孫權が建つる所梁の武帝天下第一江山の書を藏す寺庭狠石あり蜀漢の昭烈の吳王と手を把て此石上に誓ふ石久しく亡す寺僧一石を置く懷古の士往々摩し嗟嘆す雛僧窺ひ竊に笑ふ古蹟之に類する多し錄して一啖を呈す、又多景樓あり登れば淮南の草木俯して數ふべし府の西南黃鶴山鶴林寺あり、元竹林寺と名く宋の劉裕微時講堂に獨卧し龍瑞を得る処府内の龍華寺興國寺皆古刹を以て著し城上の二隅芙蓉萬歲高樓あり、登覽を以て稱せらる其他望海得江の名樓あり、淥水清風の諸官橋あり、府南丁卯橋最も著はる尚名勝古蹟頗る多しと雖も一々殫す能はず、去つて陸路を東南に取り漂陽縣常州府を過ぎ、右太湖を眺めつゝ錫山を經て蘇州府に抵る、

蘇州府は禹貢揚洲の域周の泰伯仲雍始めて居するの地武王仲雍の曾孫を此に封じ吳國とかし闔閭より以後都とす戰國越に屬し後楚に屬す秦に會稽と曰ひ東漢三國晉宋齊梁皆吳郡と曰ふ隋吳州と曰ひ唐蘇州と曰ふ宋元平江とし明清蘇州府とかす府城元吳王の都する処周廻四十七里陸門八は八法に象

る、呉城の東門を胥門とす、伍子胥の死する日、其目を抉して門に懸くと即ち是なり、樂天曰く、黄鸝港口鶯欲語烏鵲橋頭氷未消綠淚東西南北水紅欄三百九十橋と三百九十橋は城内官橋の大数を云ふ、以て繁華の一斑を見る、木蘭堂香雲樓、皆府治に在り、楓橋は府西七里に在り、山に面し水に臨み遊息するに可なり、南北往来必ず此に経る、寒山寺を隔つ三里、烏啼月落今尚然り、孤客半夜の覊思如何ん、伍子胥が廟は府西四十里にあり、今に香火絶えず、府の西北九里虎丘山あり、山中劍池千人坐石あり、〔前に写真あり〕虎丘寺晋の司徒王珣弟珉と宅を捨て寺と為す、頗る一郡の勝を聚む、又天靈巖山は府の西南に在り、呉王館娃宮の故地、宮もと西施を住ましむ、呉人美女を謂て娃と曰ふ、故に名を得る、旧云ふ下太湖を瞰め洞庭を望む、両山翠を滴らし、亦宇内の絶景と真に虚からず、今靈巖寺あり、梁の武帝が建つる所、又湖あり、宋の范大成此に居し、石湖と號す、行春橋は湖口横山の下に跨きり、放鶴亭は支硎山に在り、高僧支遁が鶴を放つ處、府西四十里、姑蘇山あり、姑蘇臺は其上に在り、呉王闔閭山に就き臺を起す、三年財を聚め五年にして成る、高さ三百里を見る、下に百花洲あり、即ち此地、又洞庭山は府百三十里太湖中にあり、明月湾、長州苑の勝あり、太湖は禹貢の震沢、史記の五湖、其位置蘇常嘉湖四府の界に跨きり、呉江縣に抵る縣の東、呉江あり、水源太湖に出づ、又松江と名け、又松陵江、笠沢と曰ふ、東門外に長橋あり、もと垂虹橋と名く、橋東千餘尺、松江に横跨し

虹亭は橋上に在り、前太湖に望む、實に三呉の絶景なり、東行数里、殿山湖を渡航し、上陸輜に乗り、又東する数十里、上海港に回着す、蓋し京師北京を出立し是に至る日数一百十五日、行程殆ど九千餘里、大抵車二を取り轎三を取る、舟は則ち略二者と相抵る、抑も本卷支那の旅行記たる、始め廣東に筆を起せしより沿海諸港を経歴し、北京に抵り、西は西川成都の奥に達し、揚子江上の各大府を経由したれば、略支那本部を遍歴したるものと云ふべし、たゞ憾むらくは其文の簡にして且つ拙く、讀者に満足せしむる能はざる事を、予亦再校の時を期し、増補する所あるべし、看客幸ひに之を諒せよ、

朝鮮國之部

船、上海を抜錨し、東北方へ駛行する、五百英里余にして、朝鮮西部の貿易場、仁川港に着しより、さて此國は西方を支那に境し、北方は魯西亞國と相接し、東北方は海を隔て、日本國と相對す、一の半島國にして、此面積の概算は八万二千英方里、全地を八ケ道と為す、京畿、忠清、慶尚道、全羅、江原、黄海道、平安、咸鏡道と曰ふ、尚不又之を區別して、州、府、郡、縣、駅堡とす、各々監守留守都護府郡守縣令察訪や僉使等の官を置き、以て政治を施行せり、其全國の人口は

千零五十一万餘・國内地形は山岳や嶺峴等も多けさど・肥田沃野も多しとす而して國の北方ヨ白頭山あり一名を・長白山と名稱す・國中無比の巨峯さり此山脈は全國の・右方を南下し支脈あり・海ヨ没す山東ヨ豆滿江の大河あり又其西は名も高き・鴨緑江を相擁す・共ヨ國中著名なる・大江ヨして滿州と支那本部と分界し・かゝ大小夥多なる・山川あさども省略す・其西南の海邊ヨは島嶼甚だ多きして・其中最も大かるを・濟州と曰ふ是き蓋し・前年魯西亜が威を以て占領しさるところなり・又本國は古の・唐堯等の世ヨ當り・王儉なるもの自立して檀君とゝひ王となり・爾後一千余年を経・殷、紂王の王族ヨ・箕子とゝふものありけるが武王の殷を亡ぼすや・此地ヨ逃さて平壤ヨ・都を定め朝鮮の國號始めて起りしが後裔箕準の世ヨ至り・秦人衛滿なるもの、乱ヨ亡び然る後・馬韓、辨韓、辰韓、の三帝ヨ分る世ヨ之を・三韓と云ふ此時ヨ・我神功皇后・の親征あり然る後新羅、高麗百濟等の・三ヶ國となりさるが・屬臣王氏一統し・更ヨ高勾麗となり後又將軍李成桂・代り立ちて是れ之を・今の朝鮮太祖とす・故ヨ朝鮮國の名は

朝鮮人貴顕之風俗

新古の別ある事を知さ・

風俗技藝は略支那ヨ髣髴さり・服制は明の制を用ひまさ・國民學事を好みつゝ漢文等を學ぶもの・頗る多く又別ヨ本土固有の文字あり・之を諺文といふ人種も支那ヨ相似さり・然して南部中央の人は性質寛ヨして・北部の山地ヨ住む・者は頗る悍なり・此國は・廣く他國と通ずなく唯・我國と支那國へ・通商往来なせるのみ又國中の氣候なる・各地同じからずして三南地方は温和なり・咸鏡・平安両道は頗る沍寒なりといふ・生産品の主なるは砂金・人参・米穀・や・虎皮牛皮を最とせり

京城崇禮門

さて仁川へ着船し北冨平を経て東方の陽川高陽等を過ぎ京師漢陽府に着す

京城の記 仁川より京城迄通計七十里

即ち王の都にて白岳山の麓に在り城の周圍は一万歩四圍高壁を環繞す高さ四十余尺あり皆石造にて八門あり正南崇禮門と云ひ正北肅清門といひ正東興仁門といひ正西敦義門といひ東南光熙門といひ東北惠化門といひ西南昭義門といひ西北彰義門と云ふ又宮城に四門あり其南門を光化といひ其北門を神武といひ東を建春門といひ西を迎春門といふ王の居城は其周圍

三千八百十三歩塀の高さ二十尺川流を引き内堀とす其幅大約五十間堅固の石橋架設して人馬を通じ城内を二分に別ち東闕と西闕と云ふ東方は王の居す處にて平地に在り下闕と云ふ西闕北の岳に據る今の朝鮮國王の名は熙姓は李氏大院君李昰應の第二子なり一千八百五十有二年に生る王后姓閔氏にして千八百五十年に誕生す故の閔台鎬の女李氏開國より都する四百九十余年なり政府を六曹に分ちつゝ議政府之を統括す今六曹を尋ぬるに吏曹戶曹禮曹と兵曹刑曹工曹かり其制度本来は支那に類し限りなき君主獨裁制にして政府は立法行政を分權する无く國民は皆虐政の下に立ち民權等の説などは全く聞かざるところなり近年金玉均の輩頻りに開進主義を立て為す所ありとるも不幸にして成り難く國事犯罪人となり我國に逃れ来て爾來倍々窮迫し現今小笠原島に孤客たるは諸君子の熟知せらるゝ處なり却て説必城中は戶口稠密櫛比して人烟填咽其屋宇皆矮陋にして不潔なり街衢は甚だ狹隘にして唯だ二三の廣衢あり何洞何々洞と云ふ市街中に釣鐘あり

初更ヨ撞つこと三點鐘人定といふ五更ヨは三ツを撞ち罷漏といひ二更三更四更ヨは鼓を打ち鉦を鳴すなり凡そ市内の人民は非常の時を除く外人定鐘を聞きし後往來するを禁ぜら社隣家と虫ども行を得ず若し其法を犯しなば決棍罰ヨ處せらるると京中商家は二階ヨて店頭織物及び他の雜貨を擬す諸品とも賣買すること稀ヨして中ヨ之を為すあるも總て七月十二月両度を以て節季とす其外小商人かどは諸品を携へ路次等を行賣し又老女は饌を制して家々ヨ持廻りつゝ之を賣る平市署といへるあり市中升秤賣買の事を專ら掌る質屋業は無けれども富者錢を貯へつ大錢一百文ヨ付月ヨ大錢五文づゝ歩を取り之を行へり若し是より高日歩を取るものあれば忽ちヨ罰せらるゝを例とせり

市民の氣質は寛ヨして一般諸人の生業も齷齪ならず何事も寛かなり然れども富めるものは稀ヨして唯だ僅かヨ我家を營む迫の有樣なり中等以上の女らは猥りヨ戶外ヨ出づる无く常ヨ裁縫のみを為し文字を學ぶは稀ヨして偶ま諺文などを〔我イ只の如きものなり〕書する女ありとても人之を稱す无く唯だ官婢は諺文を

學ぶべきの義務ありと其諺文とは左の如し〔但し諺文は世宗の始めて製する所ヨて真字より起り一百六十四字を以て通用し又附字を以て之を助をといふ〕

ㄱ其 ㄴ尼 ㄷ地 ㄹ利 ㅁ眉 ㅂ非 ㅅ役 ㅇ隱 ㅈ池 ㅊ齒 ㅋ喜 ㅌ治 ㅍ皮 ㅎ邑 ㄲ音 ㄸ音 ㅃ音 ㅆ音 ㅉ音 ㅇ凝 ㅣ異 ㅇ入時 ㅇ邑 ㅇ音 ㅇ日

가갸거겨고교구규그기ㄱ
나냐너녀노뇨누뉴느니ㄴ
다댜더뎌도됴두듀드디ㄷ
라랴러려로료루류르리ㄹ
마먀머며모묘무뮤므미ㅁ
바뱌버벼보뵤부뷰브비ㅂ
사샤서셔소쇼수슈스시ㅅ
아야어여오요우유으이ㅇ

자쟈저져조죠주쥬즈지ㅈ
하햐허혀호효후휴흐히ㅎ
차챠처쳐초쵸추츄츠치ㅊ
카캬커켜코쿄쿠큐크키ㅋ
타탸터텨토툐투튜트티ㅌ
파퍄퍼펴포표푸퓨프피ㅍ
〔타퍼와워화와워쟈저라뤄〕
〔차처톼퀴〕〔此二行は音をヨして使へり〕

入聲直て促

平聲衰て安、上聲厲て舉、去聲清て遠

但し諺文字母俗所謂反切二十七字、初聲終聲通用八字ㄱㄴㄷㄹㅁㅂㅅㅇを箕亡治

ヨ皮不之ヱ齒ム而〇伊之尿初聲獨用ハ字と阿ト也リ於ヨ余ユ吾ム要丁憂

ワ油一應ー只ヽ思

文字の事はさておきて男女一般風俗の奇なるものを揭げんに中等以下の商農は男女俱供職業に從事す老ども其農が肥糞を扱ふ事柄は女に限り男子らは更に之に與らず女の化粧は燕脂粉密油を用ひ眉細く髪太く且つ髪の多きを以て好女とす醫師に男女の二別あり何ぞ所謂漢法の甚だ拙きものにして外科に委しからず又金瘡を治す稀かりと女醫京師中數多あり官婢を擇びて政府より醫道の稽古を為さしむと此醫は男女に抱らず病を療するものなれば容貌美かるものあれば或は病に托しつヽ之を招く事ありて全國中に娼妓なし先年京畿道の内利川のドヽりと云ふ村に賣淫女を置きけるが一村三百余戸の内半ば娼家又半ば酒樓とかり遊郭の姿となりしが現今は停止せら老更に死し

又婚姻は一般に婿より年の長ぜし婦を娶るを常とす婦の年齢十有二年長ずるに

之を嫌はず又婦の年少きも妨げなし最初女の年を聞き其合性を吟味しつ媒婆を以て婚求す既に約束成る時は日を擇びつヽ婚殿より身分に應じ布帛を結納となし贈遣す已に期日に及びなば婚殿方の親戚ら一両輩にて官吏らは皆輿に乘り卑賤者は馬に乘り最賤の者と雖ども角帶や胸背紗帽の冠服を其處の地頭に借り受けて之を服すを例とせり此時若し其途中にて高貴の官吏に逢ふとても馬より下らざるあるも敢て咎めなしと云ふ婚姻式の概略はまづ始めに生雁を紅褓に包み頭ばかり出して新婦宅へ持ち來りつ庭前に日覆を張りて臺上に雁を奠へ先づ舅に鞠躬四拜し畢りなば新郎新婦を二拜しつ新婦は又新郎を四さび拜し然る後新郎の前に大棗をば盛り備へ新婦の前には乾雉を備へつヽ瓢の盃に紅青の絲を附けて新婦より新郎殿に贈るなり之を親宴式と云ふ此日は各々美を盡し式全く終りかば婚を始め同行者數人を盛んに饗應す新郎新婦は房内に一晝夜閉籠め置きて其次の日婚殿は舅に見え三日目に我本宅に還るなり然して夫婦の緣あ老ば此日夫は我手にて

誓詞を認め我妻に渡すを以て例とせり。又婦を迎ふる日を擇び官吏の女は輿に乗り中等以下の者にして遠き處は馬に乗り長衣を被ぎ附人も之に應じて新郎の宅に至り舅姑をば四さび拜し其日より夫の家に留るなり。又附き來る人々は盛んに饗應せらること前に異なるところなし。

又葬式の概略を左に記載せん病人が死に臨むや側らの人々聲を發すなく絶する時男には女の手を放すなく女は男の手を放さず既に絶せば新らしき綿を以て面を覆ひ皆哭し又死者の上着を取て屋外に持出し北に向き死者の名を三さび呼び其衣を以て戸の上に覆ひ男女戸の側に集り慟哭し身近きものは男女とも髪をさばき飾服を去り且つ葬主早速に喪服等を仕立てつゝ二日の内に用意して三日目に葬送す戸を棺に斂む前沐浴をさせ髪を梳り最と清らかに扮ひつ新服を着せ木綿にて總身を卷き手足の爪及び平常に身に着けたる品等を袋に入れて棺内に おさめつ棺を脇に置き戸は屏風を以て圍ひ枕に就かしめ衾をきせ真珠及び無孔珠三米二升を清水に浸しつ之を持出す

此時側の者どもは戸に向ひて枕をば離すと呼べば喪主は匙を以て水米を口にそゝぎ口中の左右に真珠を入れ置きて又枕に就かしむる初めの如し喪主は悲哀席を去らざれば側の者らむりやりに之を連れ出し間も无くて戸を棺に納むかり棺の角々蓋までも漆又は松脂を塗り且つ其内は紙を張り棺外處々に雲を畫き絹や木綿や紙を以て棺の見へざる樣に覆へ天蓋とて ふ靈の座定まりたれば香を焼き燭を點じ鄭重に膳部を備へ又魚肉酒菓を備ふ而して膳三つの内其一は死を迎へとる鬼神らに供へまた其一は死者を導く鬼神らに供へ且つ其次の一は戸に供ふなり。

葬は日並と時刻とを嚴に擇び白晝に家を出し炬松や方相を持ち靈車なる両側燭を燃しつゝ銘旌を靈車の先に立て喪主を始め親類は皆車に乘りつゝ之を引留む體にして男女慟哭なしながら野に送る、葬りは死者の頭を北に向け其横をば前にして靜に之を葬りつ棺の上には銘旗を置き土を下し鉦鼓をは鳴す例なりまた塚は土を盛りて圓形に造り即日石蘭の如き草を置くとゝふ

さて京城を出立し道を東北方に取り楊驛、永平、金城や鐵嶺等を経由して此國東部の貿易場元山津に着しさり此地は即ち近年に我政府より條約し開港せしめし処にて我領事の廳あり内外通商日に増しつ月に盛んに行はれ將來日露朝間の一要港となりぬべし此地に搭別奇觀なし よつて日本郵船會社なる瀛船に乗り込み航路を南に向け駛駛すること四百英里余にして釜山港に着したり

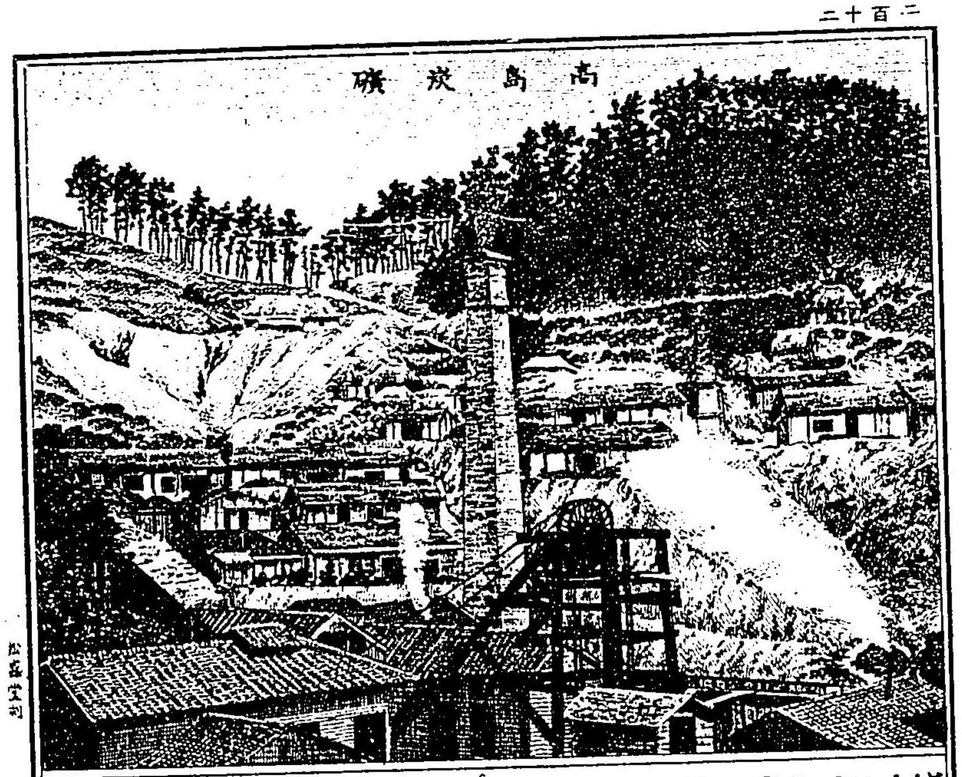
此地は朝鮮南端の良港にして我人民は古々渡來し國民と貿易なせる所にて近年彼と條約後居留するもの増殖し貿易額は國中に第一等の位置を占む市街に見るべき奇觀なし唯往昔豊太閤此地を遠征したる時諸將の據りし城址且清正公の祠あるのみよつて此地を解纜し我對州の沖を過ぎ南へ航する数十里長崎港に着したり

長崎港之記

長崎は元彼杵郡の一部なりしが地の利よく人家多く繁華なる都邑なれば別劃し今は長崎區とかりて役所を櫻町に置く市街の周圍は皆總て西彼杵郡より東北南

長崎大浦之景

三方山をひかへつゝ唯其西の一方のみは海水深く灣入し自から一良港をなす本區の土地は狹けれど人家稠密櫛比して其数七千餘りあり九州第一繁華の地諫縣廳を始とし裁判所や監獄署警察電信郵便局男女の師範學校や商業學校及他の公私立の小學校銀行諸會社等ありて區の近傍には病院や醫學校や中學校英佛其他の語學校縣會議院等ありて凡そ文化の今日に必要なるもの缺くるなし流石東洋第一の文明國たる日本の市街なりと知られさり又港内は水深く波穏にして船泊を



泊すゝ最も宜しくて本邦五港の一なり内外軍艦商船の出入繁く帆檣は常に港内林立し商戦最も盛んなり

その西北岸に砲臺あり東南岸に税関あり

区内の町数八十七その内繁花なるものは江戸町築町濱町や船大工町等にして中にも右の濱町は百貨の商店櫛列し商戦場の中心にて人馬の往來絶ゆるなく

また西南部なる大浦町出島新地等などは外國人の居留處支那人を始とし

遠く歐米國々の商賈居留し各國の領事館あり支那人の家屋を除けば皆美麗

道路もすべて清楚なり

区の西南戸町村に小菅の造船所ありて對岸飽の浦郷に亦造船所を建つ

之に隣りて立神の最と廣大なる船渠あり

区の東北王園山名高き諏訪神社あり縣社かせども市民みな厚く之を信向し

其祭典の盛んなる他に比を見ざる所なり神社の西に園地あり之を長崎公園とす

市街に臨みまた遥か港の景色を眺むべく園内樹木多くして四季とゞくの花卉を植へ

池上に噴水等ありて暗夜を照す瓦斯燈あり休憩する茶亭あり南の山腹宇をば

稲荷ヶ岳と稱す地に招魂場あり困難に死せし忠義の魂を祀る處のものにして

風致の佳なるは又右の公園地に譲るなし寺院の内にて名あるは大音、福濟、皓臺寺

崇福寺は往昔に支那人建立し来るもの

又此市民の生業は概ね商賈等にして外國人との貿易を事とするもの多しとす

之に亜げるは工にして日用什器を始めとし鼈甲細工、繡箔や唐木細工等と為す

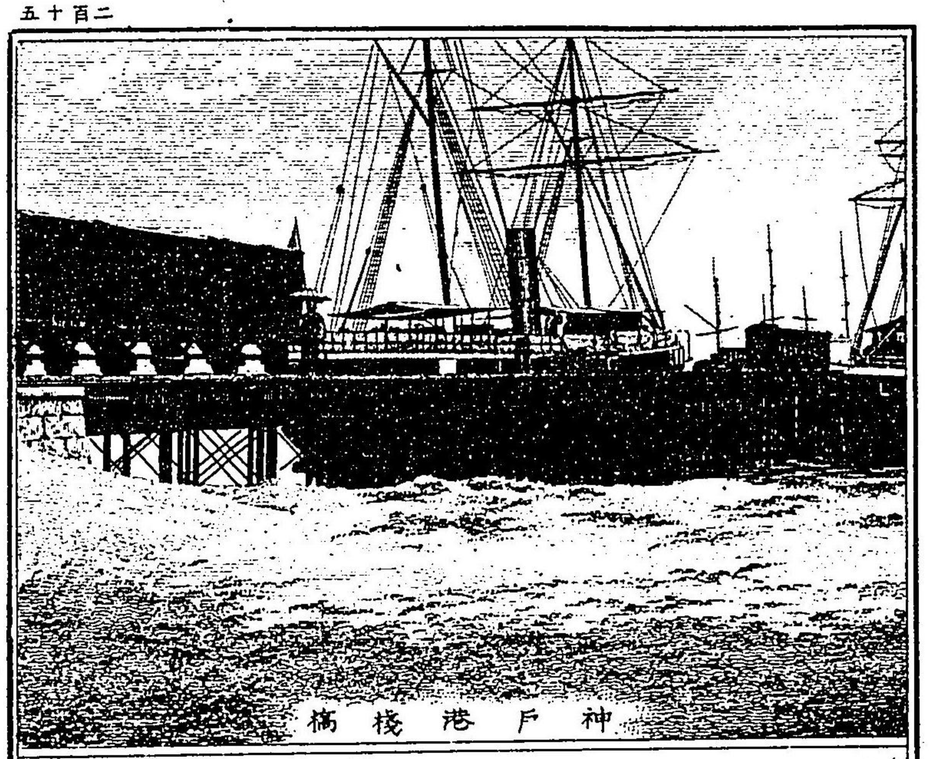
縣下に着名の産物は当郡高島より出る石炭にして礦坑の規模極めて宏壯に

機關の精功なる事は筆紙に盡せぬ所なり右の畫に依り概況を目擊すべし日々に

蒸氣力と數千の鑛夫を使役し掘出す其石炭は百萬斤以上かり又中の島其他の諸坑より出る總産額を合すれば一年數億万斤に上るとゝへり文明の今日右の産品は誠に貴重のものにして鉄くゑからざる要具なり さて長崎の觀終り瀛船に乗りて出發す港口夥多の島嶼あり みな秀麗なる山なりて又遠近の峯々は皆峻拔船は走す島嶼は流るゝ如くにて轉瞬の間に種々の変化を為す真にまれ瓊浦の景なり シンガポールや香港の島嶼の景も又迥か及ばぬ所のものにして世界に屈指の勝地とす 黎明肥前に名も高き唐津呼子の浦を駛せ午後に馬關を過ぎ通り周防沖にて日暮し翌朝五時に船は早藝備の海峽過ぎんとす 絶景筆紙に殫さず蓋し歐米各國の瀛船是を通ずるや船長乗客を呼起し全世界中第一の勝地を過ぐと報ずと云ふ實に世界に比すべき風景奇絶の名所なり 午後神戸に着船す

神戸港之記

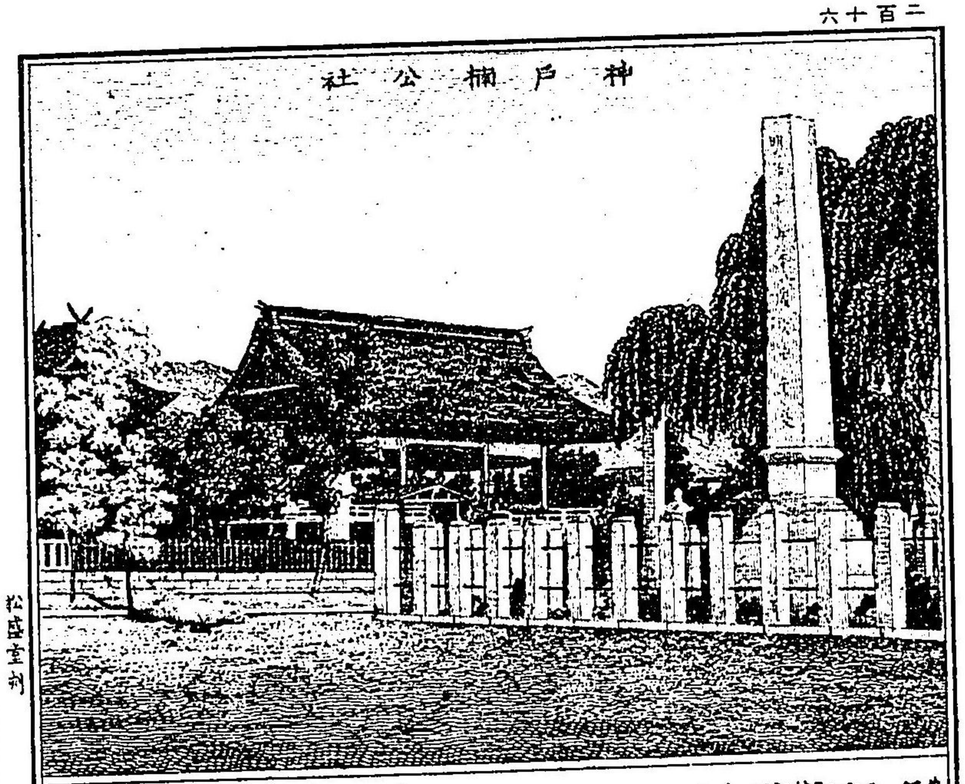
市街は北山に倚り西は湊川を以て兵庫に連る灣内の東西十有餘丁あり所謂五港の一にして慶應以來内外の船舶出入絶ゆるなく市街は鐵路貫通し



神戸港棧橋

商賈四集内外の萬貨輻湊山積し外國貿易盛んなる互市場中の第二たり此地開港前迫は一小村落かりし為め建街日尚ほ浅くして人煙稠密ならざるど富豪接比し屋宇皆清麗かり而して縣廳其他の官衙あり 銀行商會等多し外國人の居留地は山腹及び海岸に戸數凡そ二百余何れも街衢清くして高樓白壁相映ず 煉瓦石を積める在り花崗石を畳むあり 建築佳麗を盡したり此地と兵庫の境界に停車場あり又東大約十有五丁を隔て三ノ宮ノ停車場ともに構造美麗かり

神戸楠公社



名所旧蹟多き中・多門通りの東なる湊川の神社は・楠正成公を祀る蓋し別格官幣社なり・祠殿儼麗境域は廣寛にして實人は・日となく夜となく接踵す此地も旧は寂莫たる田畦に属し只縄かこの孤碑を存せしのみなりし・明治四年神祠を賜ひ始めて廟を建つ・碑は徳川光圀の建つる所・旧に依り・右境内に建立せ生田神社は下山手・東頭に在り翠緑は叢密閑静愛せべし・一に生田の森と云ふ今公園地に属したり・彼の元暦の戦ひに平氏の東門此に在り・生田は縣社の一にして以西地勢漸起り・鐵路に臨み最と高し

松壁宣利

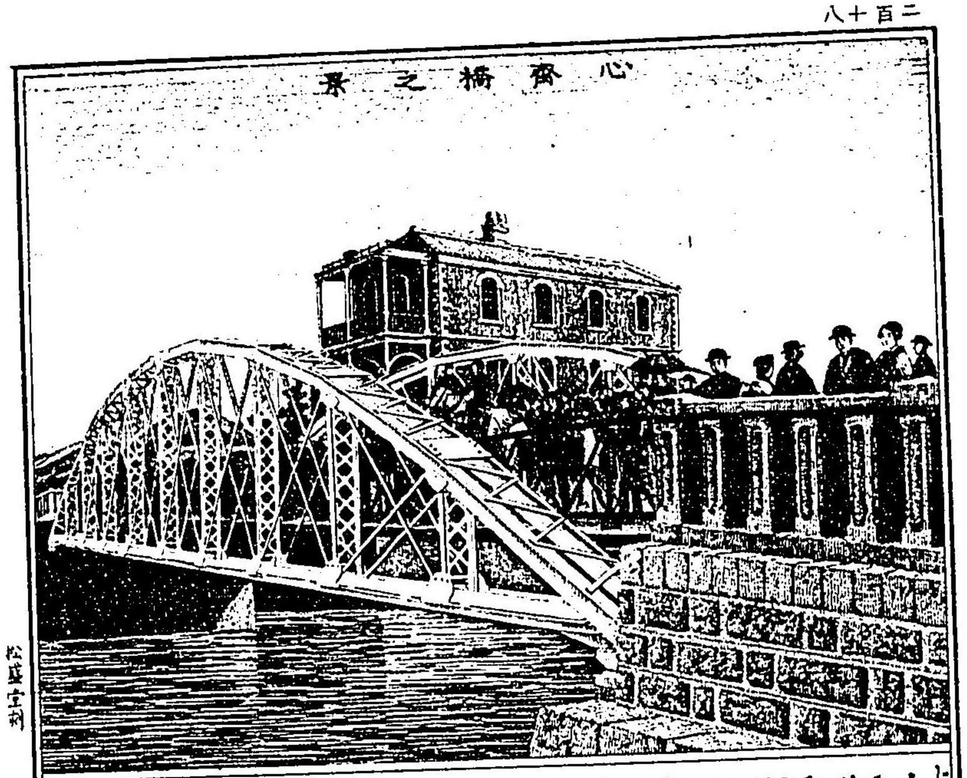
大阪心斎橋通街

即ち花隈城の古址・元亀年間織田信長荒木村重なるものに・命じて築きし処なり猶布引や諏訪山等・名勝頗る多けれど略して逐一記載せず・三ノ宮より瀧車に乗り凡そ一時間を經て・大阪梅田に着したり

大阪府之記

大阪は旧と浪速と云ひ・東成と西成の二郡に跨り東西の・直経一里三丁余・南北三十三丁余・周圍は即ち四里にして戸數大約九万零・八百二十餘りあり人口廿有八万・一千一百十餘と・現今之を大別し・東西南北四區と為す其幅員は東京の・四分一に過ぎざれど

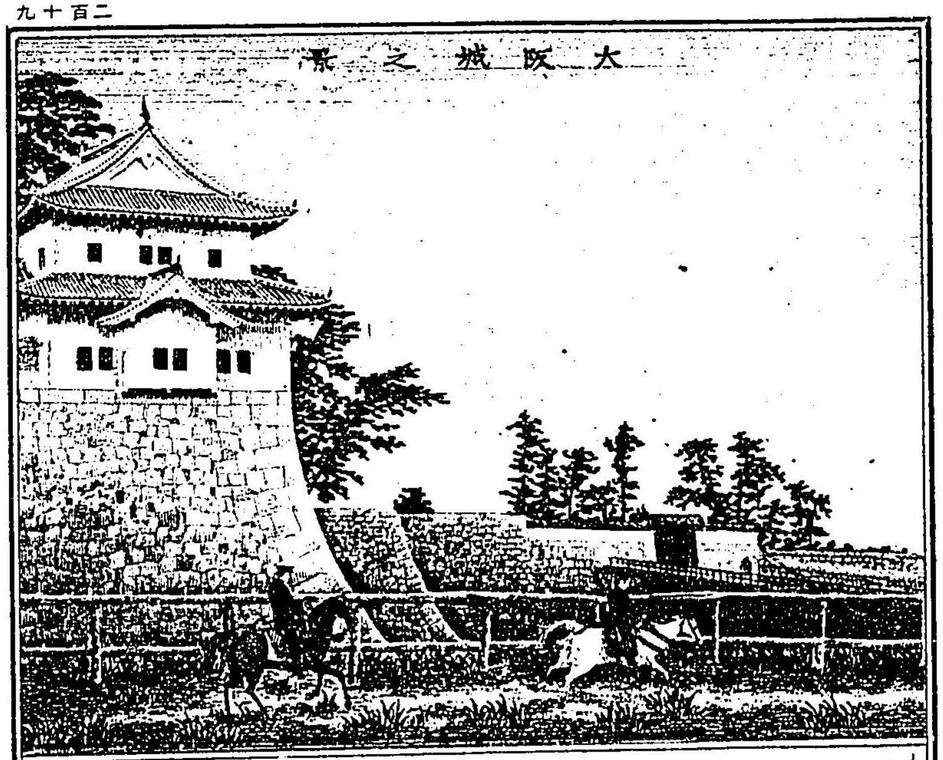
心齋橋之景



人煙稠密商業の繁盛なること全國中其比を見ざる所なり今其實を知らんまは梅田停車場の西郵船會社の倉庫在る各種の貨物と繪符を見西區川口波止場なる商船會社が日々に扱ふ所の諸貨物並に税関近傍の清國商賈の出入品堂島及び中の島土佐堀等の米廩や江戸堀靭の肥物藏西横堀や阿波堀や立賣堀や長堀の河岸に埋めつ山を成す數限りなき材木と高麗橋や今橋の銀行及び本町や心齋橋筋堺筋其他五百有餘の市街に駢ぶ商廓の門戸をうがつひたらむは我全國一般の

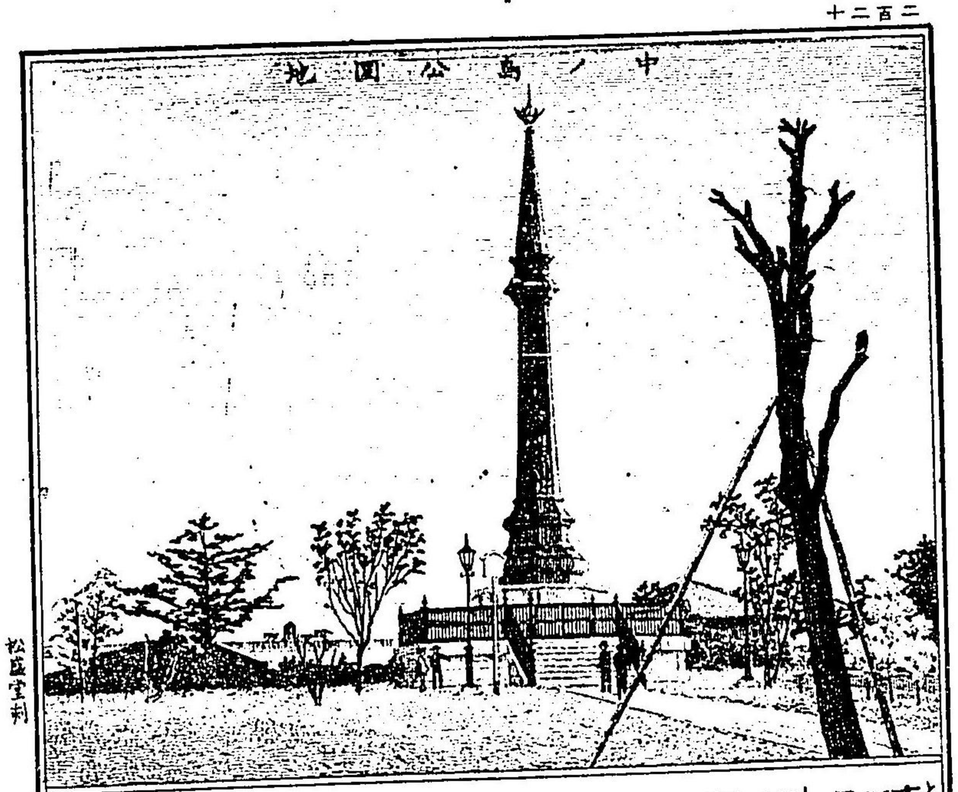
松盛宣刊

大阪城之景



商業上の全力を動かすに足る象あるは自ら推知ふし得べし此地は即ち豐臣氏大阪城を築しより更に觀を新まし爾來繁華に赴けり蓋し日本全國の小き眼より見る時は盛は即ち盛ふきど予が先年來旅行せし歐米諸國の各府と比較すれば大阪は恰も歐米各國の一村落に異ふらぎ如何とふきば大阪の商業は皆日本の内地と取組むものにて諸外國との取引は實に少數ふきばふり凡そ今日文明の社會に立ちて我も富み國を富强あらしむは諸外國と商戰し其利を獲るに若はふし譬へば阪地の野々村が

中ノ島公園地



松盛堂刊

東京丸屋と商戰し千萬田の利を得るも日本國の財産は毫も增殖せざるべし然るに海外各國の諸商軍と戰ひて獲たる所の潤益は則ち一人の利に非ず之と同時に日本の富を增せしに外ならざ彼の和蘭は我國の筑前筑後肥前肥後四ケ國に住む人口と比較すべきの數にして然も泥土の中に住み産物等も勘きに諸大國と對立し富强なるは國民が古來諸國に通商し勝利を得るの結果なり然るに阪地の人にして否な我日本の商賈中諸外國と活潑に取引を爲す者とは果して幾人あるべきか是を予が阪府は數の

村落と云ふ所以なり。啻に阪商のみならず我全國の商人は奮然海外各國の諸商軍と交戰し各自利益を收むべし。國の富を殖すべし。却て說く大阪の名所の紀事多けれど紙數に限り有るなれば近日發兌の日本名所圖繪に記載せん。世に類書あり青木嵩山堂出版の者也。

東にあつては大阪城砲兵支廠博物館高津生國魂天王寺新清水等にして南は市街を距る二里余住吉神社を始とし道頓堀の演劇場府會議事院等となす西は江の子島にある大阪府廳を始とし天保山や三軒家綿絲紡績場及び外人居留地等にして北は梅田の停車場天滿天神中の島豐國神社公園地造幣局に止まれり。市内に主なる社寺には御靈神社兩御堂座廣稻荷等にして其他枚擧に遑まなし。以上の名所を見物し。茲に全く萬國の名所古跡を觀終りて市街の中心々齊橋安堂寺町南なる嵩山堂に歸着せり矣。

附録

編者曰く予は前葉安南國の部に於て附録を追加する事を讀者に約せり蓋し予が第五卷

に掲載せし日本街の事に付き一の奇談あをばなり時に本年九月十一日大阪府下西區土佐堀一丁目十八番地王水商社主人堀田信氏より一書を得たり披ひて之れを閲みするに前畧小生頃日貴著萬國名所圖を一讀するに其第五卷呂宋島の部に呂宋即ち西班牙領の如き現に日本街と称する處ある云々是倭寇渡航の事に因するならんとの御明考を掲載せられたり此件に付聊鄙見を呈し度し小生明治二三年の比摂州松阪在住の時同所白粉町に角屋七郎治郎と称する旧家あり　商人也　其邸内東照宮の一社を祀きり毎年旧四月十七日には諸人参詣をゆるして種々の古器遺物を展覧せしむるに安南呂宋の古錦陶器其他舶來奇異の珎品数多陣列せり小生主人七郎次郎氏に其來由を尋ねしに祖先七郎次郎事天正十年六月京師に於て明智光秀逆乱の節東照公摂州若松浦に着せられしを柴船に乗じ尾張床鍋迄で送り進ぜたるが後駿府へ被召何にても望之旨吉上可致ゑ事其頃駿府出入の廻船過分之儲け有之に付き四百斛船壹艘諸役御免津々浦々いづもの所へも乗り廻わし勝手たるべき様願出候處天正十年八月廿三日に免許朱印を賜はりたるより尓後所々へ廻船し遂に

安南國へ渉行交易をはじめ年々歳々頻りに往来繁昌を極め候に付彼地に居住市街を開き日本町と唱へ日本の寺院をも建立し二代目七郎次郎に至ても継續家業の処三代七郎治郎に至り中絶し已後音信相絶へ其成行不相分即ち陣列の品には彼地往來の比携へ來りたる遺物なりとのおと詳に相語り家系を初め古文書類種々取出し示したる内に獣皮を紙の如くしたる額面に安南渡航の圖面を畫きたるものも之れありし僕是を聞き三百年の昔にして僅々三四百石の小船を以て千里の風浪を渉ぎ海外へ獨行殷冨の計をなし日本町の名称を煙せし贈畧は頗る傑傑の男子と深く感ずる所ありて今に忘れざる所かり談角屋に遺存する處のものは確乎証憑するに足るものなれば日本街と称するは則ち七郎治郎の設くる所にて歴々遺存する墓碑は則ち七郎治郎初め其類属の墓碑ならんこと決して疑ふべからざるものに〕以下畧す

右の報により編者は欣然として寒暑の勞を厭はず、再三摂州松阪に行角屋七郎次郎氏

（當主は七代目にて本年七十歳の高齢なり　氏の肖像は本書六十三ページにあり）に面會し實際を聞取り、且つ談家秘蔵

の安南記、其の當時安南より來さりし書狀古鐔、古陶器、德川殿下の御朱印珎らしき白牛の皮ヨ畫きたる航海圖等充分證憑ヨ足るべき者を寫真ヨとりて實際を讀者ヨ示さんと欲すれど七卷出版の期既ヨ迫りたれば遺憾ながら此事實は弊店ヨ於て引續き出版する關德先生著述日本の光輝へ詳出すべし愛讀諸君乞ふ猶愛顧せられんことを

世界旅行萬國名所圖繪第七卷 大尾

明治十九年六月二日 版權免許

仝 十九年十二月 刺成出版

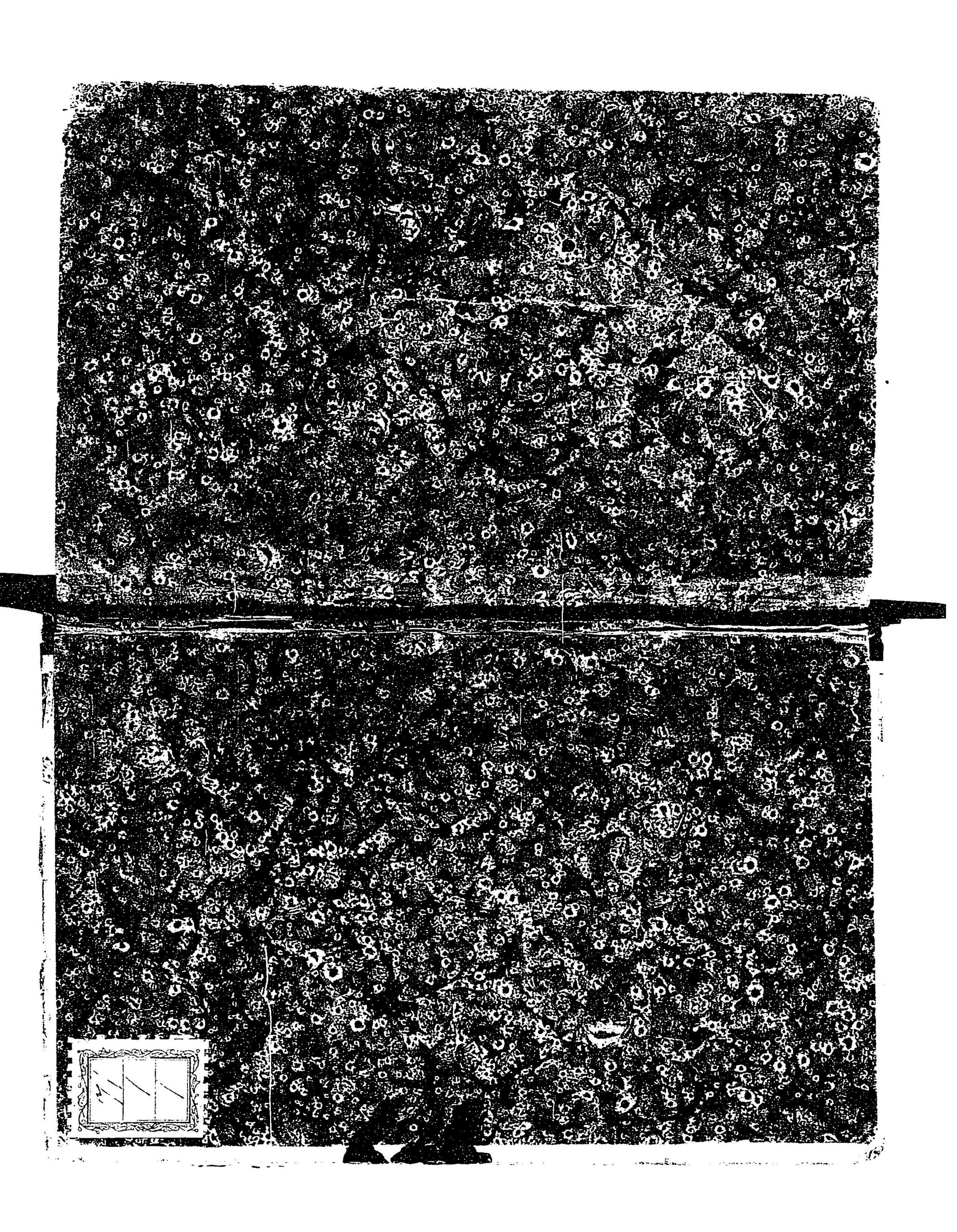
定價金七拾錢

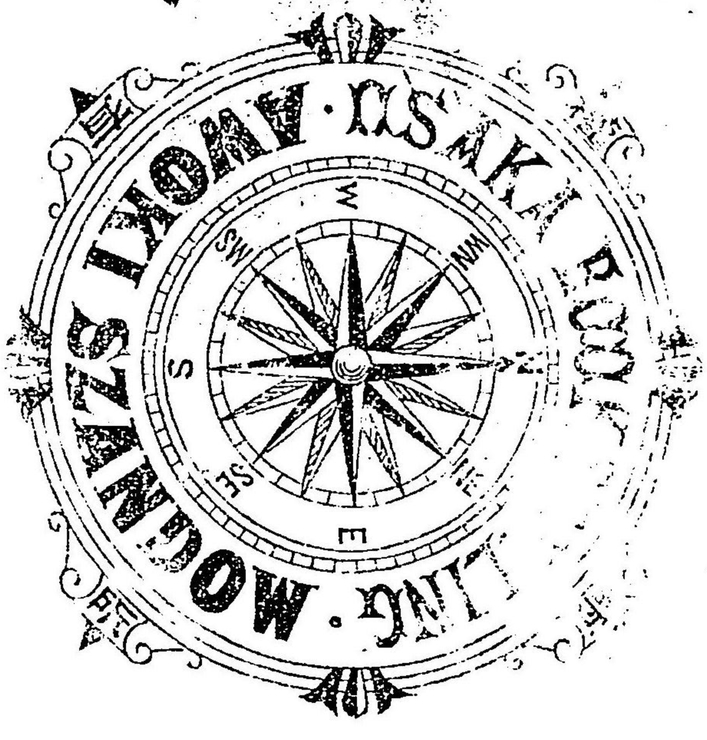
編輯兼出版人 大阪府平民 青木恒三郎 南區安堂寺橋通四丁目六十一番地

製本發兌所 大阪心齋橋筋安堂寺町 青木嵩山堂

大賣捌所 東京日本橋區横山町二丁目十七番地 嵩山堂支店

大賣捌所 勢州四日市竪町 若井嵩山堂




SZANDOW · MOCNE
LNG · AWOKI · ŁSMKI · ROWY
N
NW
W
SW
S
SE
E
NE